

脊椎圧迫骨折の治療法「BKP（経皮的椎体形成術）」について

BKPとは Balloon Kyphoplasty(バルーン カイフォプラスティ)の略号で、日本語では経皮的椎体形成術といい、1990年代にアメリカで開発された新しい治療法です。日本では2011年1月より公的保険が適用されるようになりました。

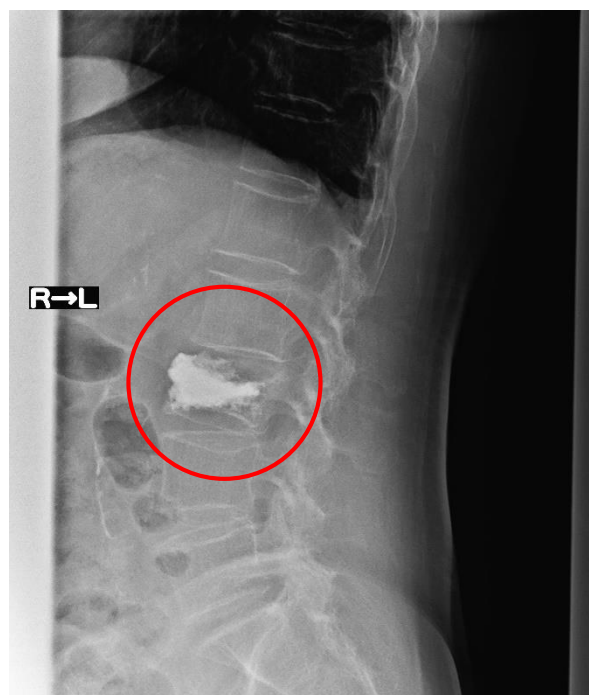
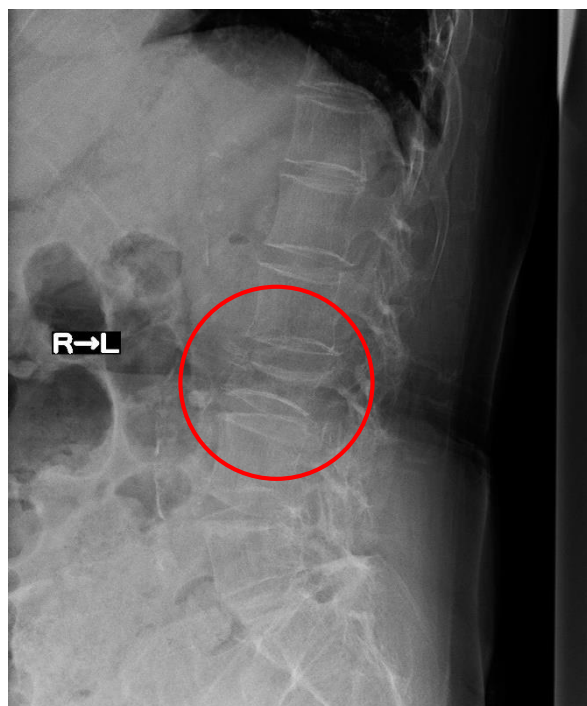
BKPは「いつの間にか骨折」と表現されることもある、脊椎圧迫骨折の新しい治療法です。脊椎圧迫骨折とは、骨粗鬆相のため弱くなった脊椎が軽微な外傷などの原因で、背骨が押しつぶれたように変形してしまうことです。

手術方法は、背中の皮膚から骨折によりつぶれた背骨に細い針を挿入し、圧迫骨折した椎体の中でつぶれた骨の形を元に戻すようにバルーン(風船)をふくらませ、椎体内にできた空間に医療用の骨セメントを詰めていきます。



手術前

手術後



手術時間は20分程度で、傷口は背中側に2箇所の5mm程度、入院期間は2日間です。術後の痛みはほとんどありません。BKPは骨折による痛みを緩和し、早期離床を可能にするだけでなく、椎体の変形(後弯)して治るのを防ぐ役割もあります。猫背での慢性的な腰痛の予防にもなります。また、変形治癒してしまうと後ろの神経を圧迫し、将来的に足の痛みなどが出てきますが、早期にBKPを行うことで予防にもなります。